

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2016年6月11日（土）～12日（日）

@浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都立産業貿易センター台東館

プレコンgresワークショップ 22	
企画名	プライマリ・ケア医のための在宅がん看取り入門
日時	2016年6月10日（金） 19:00～20:30
会場	第10会場（台東区民会館 8階 第3会議室）
企画責任者	土屋邦洋（医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック）
定員	24名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>がんによる死亡数は増加を続け3人に1人ががんで死亡する時代となっている。厚労省などの報告では死期が迫っている時の療養場所として、63%の一般国民は自宅で療養することを望んでいるが、実際最期まで自宅で過ごせるのは15%程度とされる。</p> <p>プライマリ・ケア医にとっても、在宅におけるがん終末期医療の提供は必要とされる能力であるが、その実際を経験できる場は多くない。在宅医療に熟練するチームにおいては80～90%もの患者で最期まで家で過ごすことができ、そのための様々な工夫や技術を身につける事で在宅看取りの質を高めることができる。</p> <p>本ワークショップではがん終末期患者の在宅診療において、病状変化を予測し後手に回らない対応スキル、多職種連携のマネジメント能力、在宅特有の診療報酬に関する知識、無理のない休日夜間体制作りなど、看取りのエッセンスを共有し、獲得する。</p> <p>苦手意識を克服し、自信を持って、確実に、患者や家族のみならず医療者の充実感や満足度の高い、在宅看取りを実践できることを目標とする。</p>	
<p>【概要】</p> <p>在宅医療、在宅看取りに関する概説を行った後、がん終末期在宅患者の典型シナリオや経験例を元に小グループでロールプレイを行う。その中で抽出された課題や問題点に対して解決法を議論し在宅看取りの流れや重要ポイントについて理解を深める。ワークショップ終了時に下記の四項目の獲得を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 自宅退院時からグリーフケアまでの全期間を7つ（在宅準備期・在宅開始期・生活再建期・病状変化期・看取り前期・看取り後期・グリーフケア期）に分け、それぞれの特徴と必要な医療的／介護的介入について把握する2) モルヒネの持続皮下注射を含むペインコントロールのコツを知る3) 訪問看護ステーションの使い方や、診療報酬上の必要知識を獲得する4) 患者説明ツールを使いながら、家族ケア・家族へのデス・エデュケーションの手法を知る	